おさかな配ってはや七年
－若潮会からのクリスマスプレゼント－

上入津漁業協同組合　若潮会
会　長　冨高　吉幸

１．地域の概況

蒲江町は、大分県の最南端に位置し、宮崎県と隣接する人口一万人弱の町である。町内には、４つの漁協があり、県内の沿岸漁業生産金額の四分の一を占める県内有数の漁業の町である。また、マンボウが飼育され人気を呼んでいるマリンカルチャーセンターがあり、ダイビングや観光定置網漁業など海を生かした観光で売り出し中である。

私たちの上入津地区は、この蒲江町の最北端に位置し、古来から波静かな入津湾と黒潮巡る豊後水道から授けられる海の幸を生活の糧として暮らしてきた。

２．漁業の概況

上入津漁協は、正組合員２９１名、准組合員２４０名併せて５３１名の組合員数である。

主な漁業種類はブリを主体とした魚類養殖、真珠養殖やモジャコ採捕、小型底びき網などの漁船漁業がある。

平成１１年の漁業生産額は約３０億円、うち養殖業が約２８億円と漁業の中心である。

３．研究グループの組織と運営

若潮会は、上入津漁協青年部の養殖部会の通称で、１２名の魚類養殖後継者で構成され、１１年前の平成２年３月に活動を始めた。

従来の漁協青年部活動のみならず、魚類養殖の継続・発展を目指して活発に活動しているグループである。

これまでの若潮会の活動として、まず最初にＥＰとモイストペレットとの環境負荷比較試験を行った。このことについては、平成５年の全国漁村青壮年婦人活動実績発表大会で『入津湾とのよりよい共存関係を求めて－モジャコの餌料比較養成試験に取り組んで－』と題して当時の会長が発表した。その後も町や漁協とタイアップして限りある漁場の有効利用を目指し、浮沈式イケスを使った沖合養殖試験や、マイワシ不漁に対する代替餌料として、輸入ＥＰを用いたブリ２才魚の餌料試験も行った。

また、毎年夏期には入津湾の水質環境調査を行っている。この活動を継続して行っていることが認められ、昨年度「漁業士実践技術開発事業」で調査器具を更新してもらった。

４．実践活動課題選定の動機

そうしたなか、平成６年の定例会で、会員から「魚類養殖を始め漁業は、みんなの海を使って行っているので、何か社会のためになることをするべきでは」という意見がでた。

確かに自分たちだけのものではない、みんなの海を使いその恩恵を受けるのが漁業であ

る。海を汚さない養殖、効率的な養殖技術の開発、水質調査、清掃活動などは私たちの生活のための活動である。つまり、やって当たり前のことである。

ある会員から、「それなら、自分たちがつくった自慢の『豊の活ぶり』を、それぞれが持ち寄り、県内の福祉施設に贈ってはどうか。」という意見が出た。

それに対し別の会員から「そんなことは大手の水産会社や企業が似たようなことをやっているではないか。」という意見も出たが、「活動自体がよければ、人のまねや二番煎じでもかまわない。漁師個人が大事に育てた魚を心を込めて贈るということが大事だから。」ということで、ブリを贈ることに決定した。

5．実践活動状況及び成果

贈るからには、「一番おいしい時期に、多くの人に味わってもらおう」ということで、ちょっと合わないかもしれないが、入園者の家族も集まる園のクリスマス会の日に、若潮会からのクリスマスプレゼントとしてブリを贈ることとした。

１年目の贈り先は、狭間町の「のぞみ園」と別府市の「別府発達医療センター」にブリを贈ることとした。両園に贈るようになったのは、県内のいろいろな福祉施設に問い合わせているなかで、「肉や野菜はもらっているが、新鮮な魚はもらったことがない。ぜひお願いします。」という回答があったからである。

そして両園から要望のあった日に、各会員がそれぞれ「豊の活ぶり」を持ち寄り、一本ずつ、梱包し、それぞれに若潮会の名を入れて宅配便で発送した。

ブリのクリスマスプレゼントは大変好評で、園生からお礼の手紙をいただいた。これら手紙を読んだ後、会員一同「やって良かったなー」と胸をなでおろした。そうなると、なぜか「園生みんなの喜ぶ顔がみてみたい」と思うようになった。しかし、自分たちが届けるには大きな問題があった。

両園は狭間町や別府市にあり、蒲江町からは遠い場所である。蒲江町まで高速道路ができた後ならまだしも、現状では、出荷最盛期であるこの時期、会員が直接届ける事は時間的に無理なので、翌年以降も宅配便による発送となった。

しかし、平成８年には自分達の手で届けられる場所にある直川村の「なおみ園」から「ブリのプレゼントを喜んでいただきます。」という話があり、この年、以前から念願であった直接ブリを届けることが可能となった。

ブリを届けた時、「なおみ園」では、園生全員による盛大なセレモニーが行われ、園生が精一杯拍手をしてくれた。この園生の拍手や笑顔、お礼の手紙が、これまで七年間の活動の支えであり、これからも続けていく励みである。

当初２施設だったブリの贈り先も、「のぞみ園」「別府発達医療センター」「なおみ園」「はまゆう」の４施設に増えた。

6．波及効果

若潮会のみの１２名で始めたこの活動も、現在ではブリ養殖業者全体に広がった。

そして活動の趣旨に賛同してくれた大分県漁連から、「豊の活ぶり」のロゴが入ったスチロール製の箱やパウチ・ステッカーなどの梱包用資材の協力を得た。

また、マスコミで取り上げられたので、活発な活動をするグループだと評価され、テレ

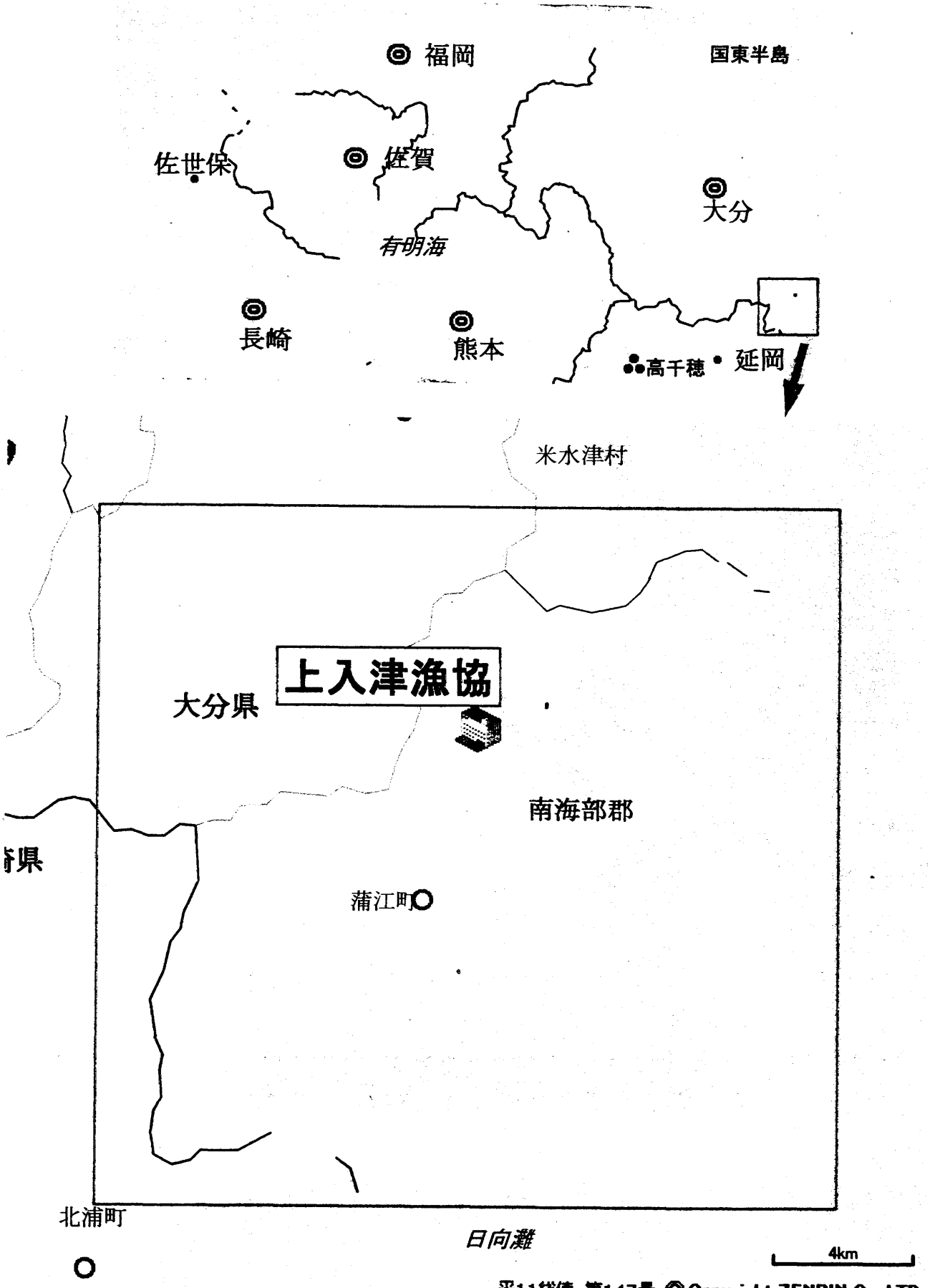
ビの取材、養殖関係メーカーからの実験養殖の依頼や、県外からの視察などが相次いだ。

さらに昨年、二施設の職員の方から、「クリスマス会で食べたブリがおいしかった」という、なによりもうれしい評価とともに、お歳暮用のブリの注文もあった。

7．今後の課題や計画と問題点

若潮会は、半人前だった私たちが、浜でこれからの養殖について語り合っていたのがきっかけで設立した。そして現在、私たちのほとんどが経営者的立場にある。また、家庭も持つようになり自由になる時間が少なくなってきたが、これからも設立当初の志を忘れず、みんなで語り合い、入津湾の環境を守りながら、養殖を続け、社会福祉活動などをはじめとする養殖以外の地域活動にも積極的に取り組み、若潮会を次の世代につなぎたいと思う。

蒲江町及び上入津漁協の位置



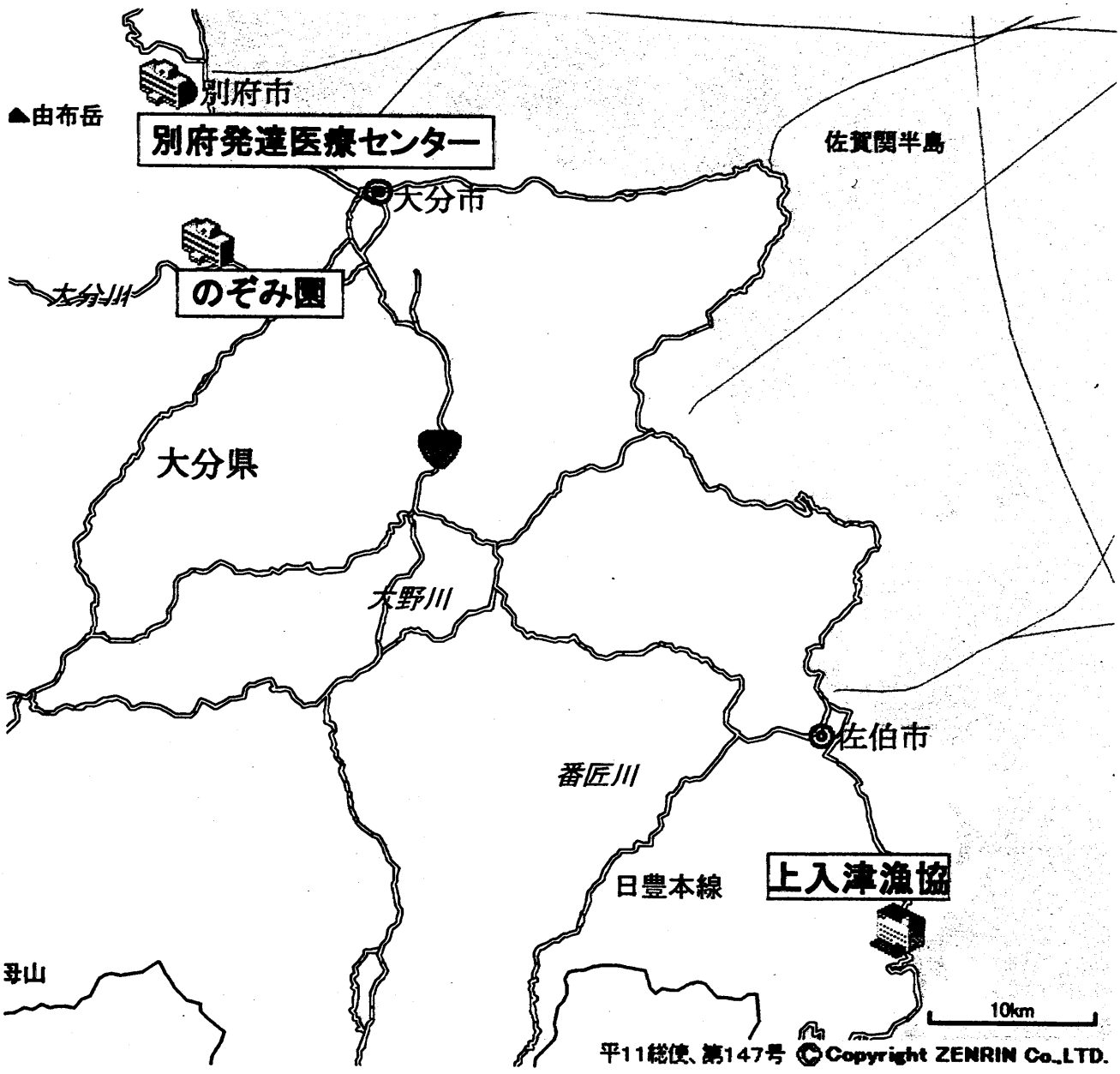
平11総使、第147号 ©Copyright ZENRIN Co.,LTD.

上入津漁協のみなさんへ

上入津漁協のみなさんブリを贈ってくれてありがとうございました。
みなさんから贈っていただいたブリを12月22日のクリスマス昼食会で園のみんなでいただきました。
とってもおいしかったです。
また機会があったらぜひ贈ってください。
楽しみに待ってます。
そして今回園のみんなが大変喜んでいました。
本当にありがとうございました。
みなさん寒さに負けずにけがをしないでがんばってください
ぼくたちも訓練や勉強にがんばります。
お元気で

園生からのお礼の手紙

上入津漁協と両施設の距離



上入津漁協から
「　のぞみ園」まで約８５km
「　別府発達医療センター」まで約９５km

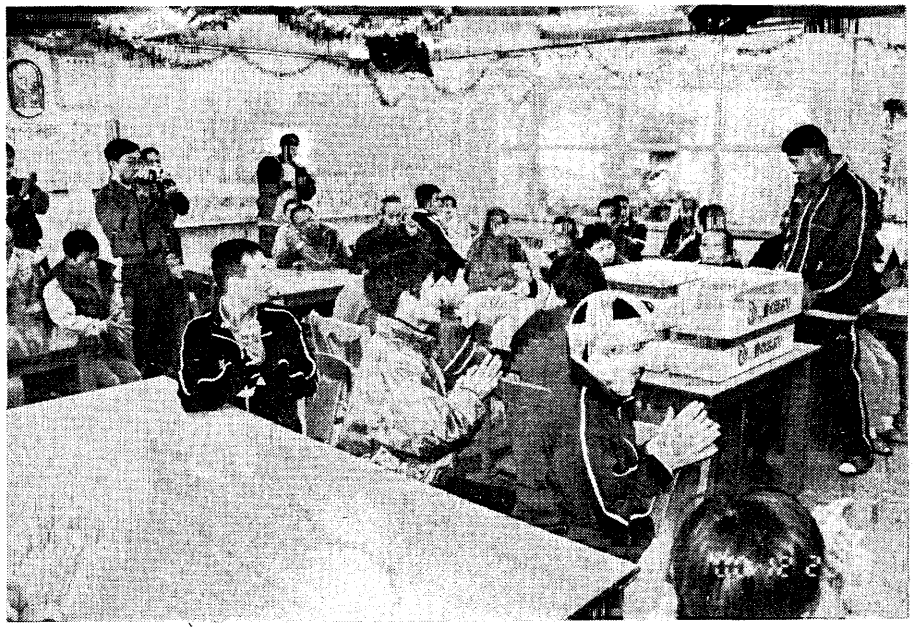


写真１　「なおみ園」セレモニー

写真２　「はまゆう」セレモニー

表１　これまでの若潮会の主な活動

実施年	活　動　内　容
平成３年	＊ＥＰとモイストペレットとの環境負荷比較試験
平成４年	入津湾水質調査（赤潮対策）
平成９年	浮沈式イケスによる養殖試験
平成９年	輸入ＥＰによるブリ二才魚養殖試験

＊平成３年の活動については、平成５年に発表済み。

表２　ブリのプレゼント先

施　設　名	６年	７年	８年	９年	10年	11年	12年
重度身体障害療護施設　のぞみ園	８尾	８尾	７尾	５尾	５尾	５尾	５尾
別府発達医療センター（整肢園）	８尾	８尾	２尾	４尾	４尾	４尾	４尾
精神薄弱者厚生施設　なおみ園			６尾	８尾	６尾	６尾	６尾
特別養護老人ホーム　はまゆう					２尾	２尾	２尾